むかしあったけど。えでとあっぱとあったけど。して「カッコ」というめごいおなごわらし子あったけど。

カッコが六つになったときにあっぱ、病気して死んでしまったど。えで炭焼きだったたえにあっぱえねば、まま、炊いてける人ねえたえに後妻もらったど。ところがごぎあっぱがえでえるどきは、カッコをすごくめごかったふりすども、えで、山さ、稼ぎにいぐというと、ごきあっぱが「カッコ、水くんでこいの」「カッコ鍋、洗ってこい」とまるでいじめだど。えで帰ってくると「カッコ、きょうどしてら」

としえったど。カッコはきょうあっぱにいじめられたという話をしてえども、がまんしてなんもしねえでいだど。

したどこがえでまた山さ、春になったためにまた山さ小屋かけて炭焼きに、毎日、山の奥さえって木を切っていだど。したどこが、きょうも「カッコ、山さいってなにかとってきてけらな」とこうしえって山の奥さでかけだど。

えさカッコとごきあっぱとえだどころがあっぱがだんだん暗くなきたために、

「カッコ、カッコ、鍋、洗ってこい」

としえったために、両方の手さ、鍋さげて、沼さ、鍋洗いにえったど。そして一生懸命鍋洗ってしまったために、家さ帰ってくるべと見たどころが、鍋のふたねえけど。このままえさもどればなんぼあっぱに怒られるかど思って、カッコは仕方なくなってねでえだら、沼のなかからせんのあっぱがではってきて「いぐべし、こっちゃあべ、こっちゃあべ」としゃべっていたために、そのまま、カッコ沼の中さ入っていったど。

葉っこさ取ってきて、カッコさけるべと思って急いで帰ってきたど。して、

「カッコ、カッコ、えまきた。きょう、えちごとってきてえ」

としえったどころが、カッコえねえたえに、

「あっぱ、あっぱ。カッコ、どこさえってえ」

しえったど。したばあっぱが

「さっきた、鍋、洗らえにえったけ、そこらにえだごった」

としえったために、えでは大急ぎで沼のどこまでえったどころが、カッコのあぎゃ緒の下駄っこばかりあって、カッコ見えねえがったど。えでがなんもかも仕方なくなって、

「カッコやーえ。カッコやーえ」

とさかんだどころが、暗くなった沼の真中から、ちゃぷちゃぷと水がたって、そして鳥っこ飛んだど。その鳥っこが、

「あっちゃ取ってえったな。こっちゃ取ってえったな」

とさかんで林の中さ、えってしまったど。

そえで春になれば、カッコウくるどきに、「あっちゃ取っていったな」という鳥っこ飛んでくるべ。あれ、カッコだど。

どっとはらえ。